

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 20日

事業所名 ぷれみあむ やよい坂

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		事業所の広さに応じて定員を決めている	適切である。その上で、机や椅子の配置なども日々のご利用者様の特性を理解した配置にできるように工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	100%		基準より1名多く配置している	適切である。その日のご利用者様の特性も考慮した配置としている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		100%	バリアフリーではない	現状ではバリアフリーを行うことよりも、ご利用者様が日々生活していく上で必要な日常動作を身につけるために活かしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		ミーティングを行っている	ミーティングでのスタッフの発言が増え、皆が様々な角度でご利用者様を見ることが出来ている。ご利用者様は関わるスタッフによって見せる姿が違うことが多く、今後も多角的にご利用者様を理解できるように努める。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		保護者アンケートを年に一度行っている	長年ご利用頂いている方が多く、ご意見はすぐに直接スタッフに伝えるということが定着しているため、なかなかアンケートに書いて下さる方が少ないが、アンケートという形を活かしてご意見を頂けるように促す。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		ホームページにて必ず公開している	公開している。もっと多くの方にホームページをご覧いただけるように努力する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%		内部監査を現場にいない役員が定期的に行っている	今後も継続する。現場外の者が見ることで、支援計画案などの説明文でわかりにくい点や日々の支援記録の内容不足などを発見でき、すぐに改善することができている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		内部、外部にて研修を行っている	内部研修は年間スケジュールを用いて必ず行っている。外部研修はコロナの感染予防対策で参加が難しい状態であったが、状況を見て可能な場合は情報を発信し参加を促す。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		適宜、アセスメントをして計画を作成している	今後も契約時のアセスメントと送迎時の細やかなやりとりでニーズや課題の把握に努めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	17%	契約時に使用している	今後も、アセスメントを元に日々の支援、特性把握を行っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		ミーティング等で話し合い、リーダーが考えスタッフ皆で作成している	今後も常に今関わっている方々にとって必要な取り組みや先に必要になるスキル獲得のためのプログラムを考え、取り入れていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		同じようにならないように工夫している為固定化していない。	ご利用者様の利用の曜日なども考慮して、全ての方が様々な活動プログラムに関われるように、週や月単位でプログラムを組み合わせている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%		土、日、祝日までミーティングで話し合っている	平日と休日に関われる時間の差や、昼食など休日ならではの課題をスタッフ皆で知り、こまかく対応して、行った結果をもって、さらに工夫してそれぞれのご利用者様の課題解決に取り組んでいる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%		毎日行っている。活動と子どもに合ったスキルを行うように努めている	事前に予定は組んだ上で、日々、ご利用者様のご様子は変化するため、その日のご様子に合わせて集団、個別を適切に行うようにしている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		平日の午前中ミーティングを行っている	その日の支援内容だけでなく、ご利用者様一人一人のこだわりの変化や行動の意味や理由など深掘りしてスタッフで話し、支援方法の見直しなどを行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		100%	翌日のミーティングで行っている	支援終了時に気づいたことはスタッフ用の連絡ノートに残し、必ず翌日のミーティングで伝え、休みのスタッフにも周知し伝達もれのないように努めている。今後も継続する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		毎日の支援記録をつけている	日々の支援記録だけでなく、保護者が気づいたことなどミーティングも活かし支援に繋げている。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		最低でも半年に1回行っている。子どもの特性など見直しを行っている。	日々の支援記録やミーティング、個別支援会議などを活用し皆で検討している。今後も継続する。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%		活動は様々な療育内容が組み込まれている	今後も新旧おりませながらより良いものを目指していく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		参加している	児童発達管理責任者だけでなく、保護者のニーズやその方と関わりの長い者など、その方に支援にとって必要者が参加するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		学校とその日の様子など情報の共有を行っている。	行事や送迎時間にとどまらず、その子を取り巻く環境として様々な事を話し共有している。今後も学校お迎え時だけに限らず何かあれば担任に連絡し支援を行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	17%	83%	医療的ケアが必要な子は現在いない	現在医療ケアが必要なご利用者様はいらっしゃらないが、受け入れが必要な場合、検討する
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%		情報共有し話し合ってきている	相談事業所なども通して、ご利用前に保護者様も交えて会議を行うなど、ご利用前のご様子などの理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%		情報共有できている	会議が開催できない場合には電話やFAXなども用いてできる限り支援に必要な情報を提供し、学校卒業後もご本人が困ることのないように努めている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83%	17%	研修に行っていたが前年度はコロナのためほぼ参加なかったが、研修情報はチェックしていた	研修はコロナの感染予防対策として参加が難しい状態であったが、状況を見て参加を検討している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		100%	コロナのため交流はなかった	交流はやはりコロナの感染予防対策として参加が難しかったが、今後の状況を見て検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	17%	83%	コロナの感染予防対策もあり参加は難しい状態	今まで、コロナの感染予防で積極的に参加は難しい状態だった。今後は状況を見て参加を検討したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		送迎時常に話している	送迎時や管理者の携帯電話での時間に囚われない緊急のやり取りなどで話すことが出来ている。今後も日々の会話などのやり取りを大切にいく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	83%	17%	保護者に「こころすらいい」と助言することもあり共有することもある	しっかりと踏み込んだお話しが出来るように今後も信頼関係を築いていく	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約時に説明している	契約時に必ず行っている。それぞれの方に合わせた分かりやすい説明が出来ているか振り返り、今後も丁寧に分かりやすい説明を心がけていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		保護者と密に話をしている	管理者の携帯電話や、送迎時など相談を受けたら速やかに対応し、様々な角度から検討しお応えしている。今後もすぐに相談ができるような関係を作り続けていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%		コロナで出来ていないが以前は毎年行っていた	以前は毎年開催していたが、コロナの感染予防対策で行えずにいた。今後の状況を見て開催可能になればたくさん保護者にご来場頂けるようにしたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		細やかに対応している	当事業所のことだけでなく、グループ内で共有し改善に努めている。事業所内のことはその日の送迎時だけでなく、管理者の携帯電話でのメールや電話など、保護者様の疑問やご要望を頂いた場合にすぐ行動している。今後も安心を頂けるように努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		毎月新聞で行事予定など伝えている	毎月ぶれみあむ新聞を発行し、様々なことをお知らせしている。その中でより事業所内を知って頂けるように工夫していく。
	35	個人情報に十分注意している	100%		鍵の付いた部屋に直さスタッフにも適宜に話し、意識向上に努めている	事業所内だけでなく、送迎時にも個人情報に気を配り、様々な人の目に触れないように工夫している。今後も怠らないようにする。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		子どもと親の情報には配慮して意思疎通をとっている	様々なご家庭環境の把握に努め、各ご家庭に合った関わりを検討し、親子関係が崩れないように配慮しながらとりもっている
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17%	83%	以前はバザーなどをしていた。コロナのため行っていない	以前はバザーなど、保護者様やその他の方も参加できるイベントを開催するなどしていたが、コロナの感染予防対策で現在は行っていない。今後の状況を見て検討する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%		周知している。マニュアル等、玄関に置いている	こまかくマニュアルがあるということをご存じの方が100%でないため、保護者へ周知を定期的に行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		訓練は子供と一緒に 行っている	様々なパターンを想定し、訓練だけでなくご利用者様むけに絵本読みのような座学活動も取り入れ、災害への知識と対応力をつけるようにしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		年間計画に入れ必ず 研修で行っている	当事業所の事だけでなくニュースなどで大きく取り上げられることがあれば話をしたり研修をしたり、意識向上に努めている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		100%	拘束は行わない	保護者様にそのようなニーズがあった場合でも、まずは拘束しないという前提でなにか出来るかを考えて提案していきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%		親が病院で受けている書類をもとに対応していた	今はアレルギーの子はいないが対応が必要な場合はそのように対応する
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		作成し、スタッフで共有している。	スタッフ間でしつかり共有し、同じことが起こらないように話し合っている。もしかしたらヒヤリハットに繋がるかもしれないという意識で、ミーティングで細かなことでも気づいたご様子は話し、スタッフで共有している。今後も継続する